

ロールモデル編 ⑤ について

生徒用ブックレット 14ページ～15ページ

解説

10年前と比較すると、「社会の一員として、何か社会のために役立ちたい」と思っている人の割合は高まっています。特に20代の女性では20%近く伸びており(※1)、また18歳から24歳の青年を対象とした調査によると、男性に比べ女性のほうがボランティア活動に対する興味が高くなっている(※2)など、若い女性の社会貢献活動への意欲の高まりが目立ちます。

しかし一方で、社会貢献活動に参加する意欲は高くても、女性が地域で代表者になったり、全体の意思決定にまで関わったりするケースはいまだに多くありません。例えば、女性の自治会長が10%以上存在する都道府県はほとんどないという調査結果があります(※3)。会社と同じように、地域社会においても「世帯や組織の代表は男性」という意識が働き、女性が持てる能力を十分に発揮し切れていないのです。

ここで取り上げるのは、そんな地域社会の中で自ら団体を立ち上げ、代表として活躍する中橋さんです。専業主婦として子育てに励み、その経験をもとに地域で活躍する生き方を紹介しています。仕事を辞めて家庭に入ったとしても、また違った形で再び社会で力を発揮することができることや、子育てを経験した女性の力が社会で必要とされていることを伝えるのがねらいです。

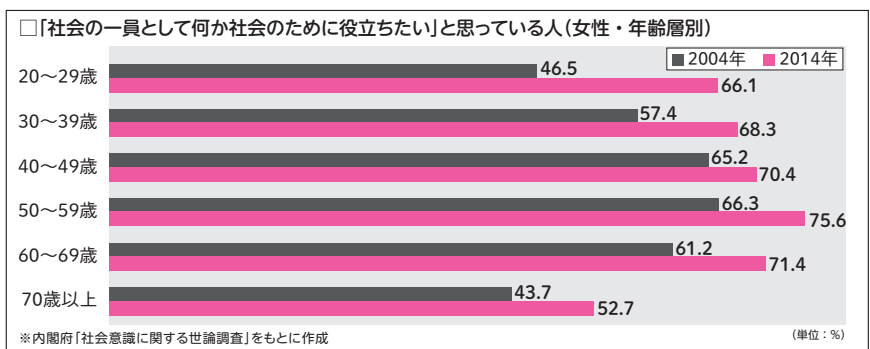
本文中では詳しく記載していませんが、「わははネット」がその活動を軌道に乗せるまでには、多くの壁を乗り越えなくてはいけませんでした。子育てサークル活動を続けるため、企業に支援をお願いすると「すぐに解散できる集まりに投資はできない」「責任を持ってやっていない」と言われたのだそうです。女性が活躍できる社会にするためには、地域活動に取り組む女性に対する、このような社会からの偏見をなくしていくことも欠かせません。「わははネット」は、自分たちが一部からそのような集団として見られていたからこそ、依頼を受けたときは必ず期限を守り、求められる以上の仕事をしていくことで、世間に認められていきました。今では経済産業省の「ソーシャルビジネス55選」に選ばれるほど知名度も高まり、転職する際には「わははネット」でのキャリアが高く評価されて、採用されることも多いそうです。

「女性の活躍推進」というと、企業で働

く女性がクローズアップされがちですが、育児をしながら地域活動を進めることも社会にとって大きな価値があることです。生徒がそのような意識を持てるようにしたいところです。

また、中橋さんは「わははネット」の活動に力を入れると同時に、家族を大切にしています。人生において社会貢献はもちろん大切なことですが、自分の幸せも犠牲にすることなく、バランスのとれた生活を送ることの重要性にも言及することが大切です。そのバランスを崩してしまうと、継続的な活動も難しくなってしまうからです。

- ※1 内閣府「社会意識に関する世論調査」(平成16年、26年)
- ※2 内閣府「第8回 世界青年意識調査」(平成21年)
- ※3 内閣府「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況」(平成25年度)



指導例

現代社会：現代社会と人間としての在り方生き方について考察させる

- 生涯における青年期の意義を理解させる。
- 自己実現と職業生活、社会参加、伝統や文化に触れながら、自己形成の課題を考えさせる。
- 現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。

全体構想

【職業選択の際の先入観をなくし多様な進路選択・働き方を知る】

- 青年期が自己を確立する基礎を培う重要な時期であることを理解させ、より良く生きることを追求することの大切さを自覚させる。(2時間)
- 勤労を尊ぶ精神を身につけさせるとともに、自己の幸福の実現と将来の職業生活や人生の充実について考えさせる。(2時間)
- 自己形成にとって社会とのかかわりが重要であることを認識させ、どのように社会的役割を担っていくのかについて考えさせる。(2時間)
- 伝統や文化についての深い理解が自分を深めていく上でも極めて重要であることに気づかせる。(2時間)
- 自らの人生や進路選択などを視野に入れながら、自己形成にかかわる自らの課題を考えさせる。(2時間)

本時のねらい

「育児をしながら、地域で活躍する女性」のロールモデルを題材に、縁の希薄化(無縁社会)の中でも、様々な人に出会い、課題に触れ、感じ、考え、行動することが、新たな人と人のつながりを構築し、ひいては、自分を発見し、自己形成に向かうきっかけとなることを考えさせる。

本時の展開

生徒には生徒用ブックレットを配布せず、分担(必要)部分のみコピーして配付した場合を想定

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項(○)と評価(☆)
導入 (5分)	①本時のテーマ「人と人のつながり」について、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)の話題を用いて確認する。	○SNSの話題から、情報・通信などの高度化に伴い、以前では考えられなかった程の多くの人と出会う社会が誕生していることを実感させ、「縁(人とのかかわり)の拡大」を理解させる。
展開 (40分)	②「縁の拡大」の一方で、「縁の希薄化」=無縁社会・他者への無関心が拡大しつつあり、この「縁の希薄化」が現代社会の大きな課題となっていることを確認する。 ③中橋さんの育児の悩みから「育児サークルの立ち上げ」に至る過程をワークシートを用いて確認する。 ④②の「縁の希薄化」と③の「中橋さんの生き方」の関連性を考える。	○生徒の日常生活における縁の希薄化について問う(店舗ではなく通信販売の利用・隣人を知っているか・挨拶はするかなど)。 ○中橋さんが育児期間を、人生の立派なキャリアであり、社会復帰に備える期間と位置付けていることを理解させる。 ○地域への参画が、新たな人と人のつながりを構築するきっかけとなることを気づかせる。
まとめ (5分)	⑤現代社会において、新たな人と人のつながりを構築することの重要性について総括する。	○様々な人と出会い、つながりを構築していくことが、自分を発見し、自己形成に向かうきっかけとなることを理解させる。 ☆自己形成・自己実現のために、自分なら何ができるかについて、考える態度が取れているかを評価する。

すべてのロールモデルを用いた指導例

特別活動(ホームルーム活動)：就業体験を振り返り、望ましい勤労観・職業観を形成し、確立させる

- 就業体験と体験発表会を経て、他者の体験を共有・比較することにより、体験を内在化させる。
- 互いに意見を発表し、他者の意見を受け入れながら、協同する態度を養う。
- 課題について探究したことをわかりやすく表現する能力を育てる。
- グループディスカッションにより、社会的・職業的自立に向けた主体的な態度を育てる。

事前・事後指導

- 事前**
- 就業体験終了後、日誌の整理や礼状作成などにより、体験により得た情報を整理・分析させる。
 - 体験発表会を経て、他者の体験を共有・比較することにより、体験を内在化させる。
 - 体験発表を相互評価し、様々な体験事項を「基礎的・汎用的能力」と関連付けて指導する。
- 本時**
- ロールモデルにより、職場からだけでは見ることができない社会人の多様な役割を認識させる。
- 事後**
- 家庭科の学習に関連付け、仕事と家庭生活の調和のとれたライフスタイルについて考えさせる。
 - グループディスカッションにより、「自分らしい生き方」について自分の考えをまとめさせる。

本時のねらい

ロールモデルにより、職場からだけでは見ることができない社会人の多様な役割を認識させる。また、人は生涯の中で、様々な役割をすべて同じように果たすのではなく、その時々での自分にとっての重要性や意味に応じてそれらの役割を果たしていこうとすることが、社会的・職業的自立であり、「自分らしい生き方」につながることを理解させる。

本時の展開

生徒には生徒用ブックレットを配布せず、分担(必要)部分のみコピーして配付した場合を想定

過程	生徒の活動内容	指導上の配慮事項(○)と評価(☆)
導入 (3分)	<ol style="list-style-type: none"> ①本時のテーマ「就業体験からは見ることのできない役割」を確認する。 ②グループディスカッションの流れについて確認する(前時までの既習事項)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までにはロールモデルの5パターンをグループメンバー5人に分担させる。 ○本時の流れを確認する。 ○グループ編成(5人組)に配慮する。
展開 (40分)	<ol style="list-style-type: none"> ③分担されたモデルを演じて、これまでの生き方をプレゼンする(各4分)。資料を見ずにプレゼンできるよう準備しておく。 ④プレゼンされた生き方について質疑応答する(各2分)。 ⑤準備時間(各30秒) (③～⑤のセットを5モデル分繰り返す) ⑥プレゼンや質疑応答の中で印象に残った言葉や内容をキーワード化して夢ファイル(キャリアノート)に記録する。 ⑦どのモデルに最も影響を受けたかグループ内で仮決定する。 ⑧グループの仮決定したモデルとその理由を紹介する。 ⑨キーワードを板書に記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○分担部分以外の(モデル)資料は生徒の目に触れないよう配慮する。 ○計時にはソフトを活用し、残り時間などがひと目でわかるようにプロジェクターで投影する。 ○プレゼン(4分)→質疑応答(2分)の5セットがスムーズに流れるよう配慮する。 ○記録はキーワード的な簡易なものとし、あくまでも聞き役に徹するよう指導する。 ○あくまでも仮決定であることを指示する。 ○板書の構造化、キーワードのグルーピングはあらかじめ入念に指導しておく。
まとめ (7分)	<ol style="list-style-type: none"> ⑩キーワードを振り返りながらグルーピング(教師による総括)を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いによって得られた成果が今後の生活や生き方に結びつくよう、資料のモデルを活用し総括する。 ☆就業体験からだけでは見ることができない社会人の多様な役割を認識し、社会的・職業的自立に向けた主体的な態度を取れているか評価する。

【資料】

ワークシート

年 組 番 氏名

▼「勉強・仕事」「家庭・生活」「趣味・社会活動」それぞれについて、あなたの将来を想像してみましょう。

	勉強・仕事 (進学・就職先、職種、役職など)	家庭・生活 (家族構成、生活する場所など)	趣味・社会活動 (文化、スポーツ、地域活動など)
現在			
年			
1年後			
年			
20歳			
年			
30歳			
年			
50歳			
年			
70歳			
年			

▼ 将来について考えてみた感想を自由に書きましょう。



【参考】本ブックレットを用いた模擬授業

本ブックレット「自分らしく輝いて生きる。」を使って、東京都立大泉桜高等学校の2年生クラスで模擬授業を行いました(授業者:井上孝雄先生)。ブックレットを用いた授業実践の一例として、以下に紹介します。

① 気づきを与える



授業の冒頭、「運転手として働く女性」「幼稚園で働く男性」の2枚の写真を提示し、生徒に感想を聞きました。2枚の写真から生徒が「違和感」を覚えたとすれば、それは、固定的な性別役割分担意識に起因していると考えられます。「男性らしい仕事」「女性らしい仕事」という固定観念を私たちは知らず知らずのうちに持っているのではないか、という投げかけから授業が始まりました。

② 多様な生き方を知る

模擬授業ではロールモデル編①・②を取り上げました。2人の話をマーカーを引きながら深く読み込んでいくことで、2人が自分の夢を叶えるため、なりたい仕事に就くために進路選択をしていることを学びます。



③ 話し合い活動を通じ自分らしい生き方のヒントを得る

2 人のロールモデルの生活が仕事を通じてどのよう
に変化したか、2人の働き方・生き方が職場にどの
ような影響を与えたかなど、意見を発表し合い、それを
聞いて感じたことを踏まえてワークシートにまとめてい
きます。模擬授業では先生が問いかける形で意見発表が
行われましたが、グループで話し合いながら考えをまと
めていくという方法も考えられます。



④ 自分のこととして考える

● 授業の最後に、自分の生き方と関連付けながら感想をまとめました。生徒の感想の一部を紹介します。

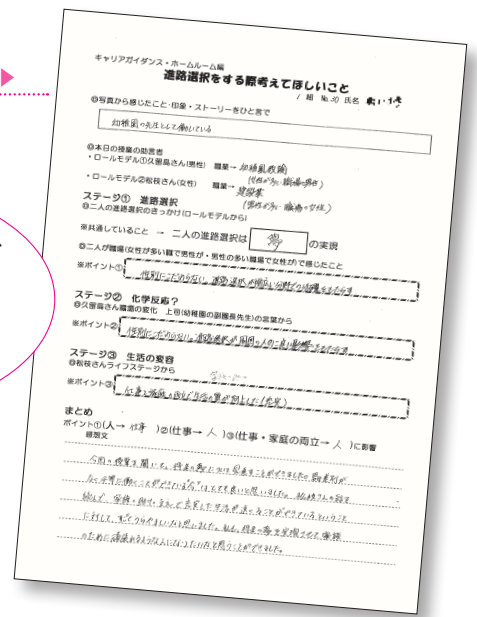
仕事は自分の得意なことや
好きなことをできるのがいちばんだと思いました。
仕事と家庭、両立するのは大変だろうけど、
それができたら毎日が充実して
楽しく生きられると思いました。

授業で用いたワークシート▶

やりたいことを実現するには、
周囲の人々の助けや理解も
必要だと思いました。
そういった環境づくりにも
貢献したい。

私もやりたいことがあるので、
叶えられるように頑張りたいと
思います。

どんな環境でも、男性だけ、
女性だけに偏らないほうが
社会にとってもいいことだと
思いました。



進路選択を真剣に考えるきっかけとなりました。

東京都立大泉校高等学校
井上孝雄先生

私 自身、かつて育児休業を取得した経験があり、このテーマを
ぜひ授業で取り上げたいと考えました。具体的なロールモデル
の生き方に触れながら考えることができたので、生徒たちも「先
入観を持たず、自分が本当にやりたいことを実現できる進路選択を
しよう」と思ってくれたようです。授業中の生徒の顔を見てると、
手応えを感じました。



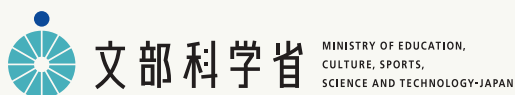
製作協力者 (敬称略、2014年12月現在)

渡辺三枝子 (筑波大学名誉教授)

井上孝雄 (東京都立大泉桜高等学校教諭)

大木 健 (東京都立大泉桜高等学校教諭)

仲田郁子 (千葉県立流山南高等学校教諭)



文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課

>>> http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/kyoudou/index.htm

※本ブックレットの内容は、2014年12月31日時点のものです。

編集・製作：株式会社学研教育出版